グループホームあやめ

（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自身の意欲向上にに繋がるよう理念は職員が見やすい場所に掲示し常に意識しながらケアをするよう心掛けている	法人の企業理念、ホーム独自の理念についてはスタッフルームに掲示し共有に努めている。合わせて4月に行われる施設長による個人面談の際に理念についての意識度を確認している。職員は利用者の様子を伺い、不安げな様子が見られる時には優しく寄り添い、話を聴き解消するようにしている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村の図書館を利用したり、広報を、利用者様と一緒に見ながら、地域の情報を知る事が楽しみとなっている	区費を納め地域の一員として活動している。回覧板も回していただき参加出来る行事には積極的に参加していたが、現在は新型コロナウイルス感染の影響を受け地域行事についても自粛状態が続いており残念な結果となっている。そのような中、毎年10月には地域の中学生の来訪があり、3年生にはテラスの掃除、1年生には草取りをしていただき、合わせテラスの窓越しで「ソーラン節」の踊りパフォーマンスも披露していただき利用者も交流のひと時を楽しんでいる。コロナ収束後にはまた地域行事への積極的な参加を進める予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、地域の方との積極的な交流が難しく、そういった活動が出来ていない。 コロナ前には、地元の中学生が職場体験で事業所へきて、認知症について学んで頂いていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、書面にて開催しており、直接意見交換をすることは難しいが、返送用の封書を利用し、ご意見を頂ける様にしている	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け書面での開催となっており、利用状況や事故報告、「写真入り」での行事報告、新型コロナ関連報告、避難訓練報告等を書面にし、返信用封筒とご意見・ご要望用紙を同封し運営推進会議参加メンバーに届け、電話等でもご意見を頂きサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告等で事業所の実情をお伝えしたり、必要時には、市町村の担当課に連絡をし、助言や指導を頂けるようにしている	役場の担当部署とは新型コロナの感染対策、事故報告等、様々な事柄について訪問したり電話で連携を取り合い業務の円滑化に繋げている。介護認定更新調査は調査員が来訪しケアマネージャーが対応し行っている。村の社会福祉協議会と計画している「身近な介護相談」も新型コロナ感染拡大の影響を受け実施出来ない状況が続いているが、収束後には進める予定をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通じ、職員全体で身体拘束に関する正しい知識を深めながら、ケアに行き詰った際には、職員間での気持ちの共有や、ケア方法の検討等を行ったり、利用者様の立場になって考えてみる事で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。ホームが幹線道路の脇に位置し車の量も多いため、安全確保の意味から玄関は施錠している。帰宅願望の強い利用者が若干名いるが、職員が話を聞いたりテラスを歩くことで気分転換を図り落ち着かれている。転倒・転落が危惧される利用者が半数強おり、法人独自の夜間見守りシステムを使用し安全確保に努めている。年3回身体拘束適正化委員会を開き、特にスピーチロック研修で「どうしたいのですか？」と優しく声掛けするなどの接遇に力を入れ、拘束に対する意識を高めつつ支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待についての知識を学んだり、ケアに行き詰った時には相談しやすい環境作りに努めている。また、利用者様の声や様子もよく見て、不安な気持ち等には寄り添えるように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方が、必要な支援を受けられる様、関係機関と協力し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分からない部分は質問して頂けるようご家族にお聞きしながら、特に重要な部分は、出来るだけ分かりやすく伝わるようにこころがけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は、会議や申し送り等を通じ、全スタッフで情報共有し、改善の努力に努めている	家族の面会は感染状況が落ち着いていた6月～7月中旬までは事前に予約を頂き、施設長がいる時を選び対面で行っていたが、現在は感染拡大に伴い玄関で電話を用いての窓越し面会となっている。そのような中、ターミナルの利用者家族については感染対策を取ったうえで最大4名まで居室での面会を行っている。また、利用者一人ひとりの様子については月1回発行される「あやめだより」を請求書に同封してお知らせし、合わせて電話で連絡を取り合い、きめ細かく話をし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を発信しやすいように、日頃のちょっとしたことでも、管理者は積極的に職員に声掛をしたり、定期的に職員面談なども行い、いつでも相談できる関係作りに努めている。	多くの職員の出席できる日を選び16時から2時間全体ミーティングを行っている。事故報告、ヒヤリハットの確認、利用者一人ひとりのケア方針、意見交換、カンファレンス等を行い、業務内容の充実に繋げている。人事考課制度があり職員は年間個人目標を立て自己評価を行い、4月、10月の年2回施設長による個人面談が行われ、理念の確認、意見交換等を行い個々のモチベーションアップにも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者面談の結果の報告などを通じ、職員の声が届く様にしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得を目指し、複数の職員が合格するなど、資格取得や意欲向上に繋がるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり、社外との交流が難しい。今年度は、認知症についての社内研修を行い、他施設の職員との交流をした		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除くために、細やかに声かけし、コミュニケーションを取りながら会話だけでなく、表情や行動にも注目し色々な面で様子を見るよう意識して関わるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人との話を基に、アセスメントを作成し、生活の中で困った事等については、いつでも相談頂ける様お伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、ご本人やご家族の思いを十分に聞く事は勿論、入居以前のケアマネージャーの方や病院などの相談員の方からも情報を頂きながら、まず、どのようなケアが必要かを見極める様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを中心に、利用者様の出来る事に着目しながら、共に生活することを意識しながら関わるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、ご本人の思いが必ずしも同じでないことも理解しながらも、ご本人がどうしたいかという気持ちを中心に、ご家族にも相談や助言をいただきながらケアをするよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で、制限はあれど、手紙や電話、面会などで会いたい方と連絡が取れるように支援している	家族より事前に連絡を頂いている友人やお孫さんの来訪があり施設長がいる時を選び窓越しでの面会を行っている。新型コロナ禍の中で買い物が難しい状況であるが、利用者の希望を聞き職員がスーパーや薬局で「お菓子、歯磨き等」を買い求めお渡ししている。また、理美容については必要に応じ、村内の理美容院が感染対策を取ったうえで来訪しカットしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにとらわれず、話したい方、一緒に過ごしたい方と自由にコミュニケーションが取れるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他種別の施設へ移られる方の場合は、特に入居後しばらくして、担当ケアマネージャーや相談員さん等に様子を聞いたり 必要な情報を聞かれた場合には、答えたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は、言葉だけではなく、表情やしぐさ等にも注目しながら、困難な場合でも、生活歴やご家族からの情報なども踏まえ、把握できるよう努めている	殆どの利用者は意思表示の出来る状況であるが落ち着かない表情を浮かべているような時にはそばに寄り添い優しく「どうされましたか？」と話を聞き、意向に沿えるようにしている。日々の気づいた言動等は介護日誌の中に特記事項として残し、出勤時の申し送りで確認し日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネージャーや病院の相談員の方などとも必要な情報交換をしながら、情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランや日課表をもとにケアし、日々の記録で情報共有しながら、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があれば、カンファレンスを行いスタッフの多方面からの意見を収集し、ご家族にも状況報告や相談をしながら、計画書の見直しを行っている。	職員は1～2名の利用者を単月で交替で担当し、全利用者の状態の把握に努めている。カンファレンスの席上職員の意見を出し合い、ケアマネージャーがプランの作成を行っている。家族の希望は面会時や電話で伺い、入所時は1ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見てその後3ヶ月のプラン作成を行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは、必ず記録に残し、申し送りなどで情報共有をしながら、モニタリングは、記録を参考に行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は、実際にご家族の葬儀に参列されたケースがあった		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、なかなか地域資源の活用が出来ていないが、地域の友達の面会がある、とか、なじみの人と電話や手紙で連絡を取っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の前回往診時からの様子や日頃の何気ない言葉などを出来るだけ詳細に先生にお伝えしている。また、経過によっては、ご家族にも状況を報告している	入居時に医療機関についての説明を行い希望もお聞きしている。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診を受けており、合わせて必要に応じた往診で対応している。また、週1回木曜日に契約の訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理と医師との連携を図っている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。その他専門医の受診対応については家族の付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回(木)の訪問看護師の定期訪問では前週からの変化が伝わるように、事前に訪問記録に気になる様子などを記入し、訪問終了時には看護師からの申し送りをもらい、相互に情報共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での生活の様子やケア状況等も踏まえ、入院に至った経過をお伝えしたり、退院時には、病院の医療相談室の方やご家族と密に連絡を取りながら、受け入れ準備を進めるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事とそうでない事をしっかりとご家族にお伝えし、主治医を交えてご本人・ご家族に意向を確認している。また、経過の中で不安に感じる事や、意向に変更がある場合には、いつでも相談して頂ける様お伝えし、ご家族の気持ちに寄り添うことも大切にしている。	重度化に対する指針があり、入居時に本人・家族に説明をし同意を頂いている。状況が変わり、特に終末期に到った時には家族、ケアマネージャー、施設長で医師に伺い、家族の意向を確認の上、医師の指示を基本とし看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に6名の方の看取りを行い、医療行為を必要としないホームとして出来る限りの看取り支援に取り組んだという。新型コロナ禍ではあるが、家族には居室で最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉も頂いている。看取り後は振り返りの時を設け次回に活かせるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じての処置方法はあらかじめ確認したり、不安な場合は研修を行いスタッフで知識の統一を図ったりしている。 今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、消防署の方に救命訓練のご指導頂く予定をしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざという時に、職員が落ち着いて行動できるように、意識しながら避難訓練を行っている。また、停電に備えた炊き出し訓練や非常電源の起動訓練等も行っている	6月には消防署へ連絡をし内部で日中想定の避難訓練を行い、インドネシアからの技能実習生を「利用者」に想定し毛布にくるみテラスまで移動しての訓練を行い、合わせて通報訓練も行い、緊急連絡網の確認も行った。また、10月には消防署の参加を得て夜間想定の避難訓練とAEDの使用訓練を行う予定である。備蓄として「水」「米」「お味噌」「缶詰」「レトルト食品」等が2～3日分準備されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアに必要の無い情報や、本人が知られたくない事には触れずに、その方の生きてきた人生の中で培われてきたものを傷付けることなく声掛けをするよう心掛けている	トイレ介助には気配りをし、他の利用者にわからないようにお連れしている。言葉遣いも目上の人に対する配慮をしながら親しみを込め、また、フレンドリーな感じも込め接している。呼び掛けは家族にもお聞きして下の名前を「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際には「ノック」と「声掛け」を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現できない方は、表情やしぐさなども見ながら、はい・いいえという気持ちが汲めるように関わるよう意識しながらコミュニケーションを取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、職員には1日の流れの目安はあるが、利用者様には、その都度確認の声掛けや、どうしたいか気持ちを伺いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見ながら、髪の手入れをしたり、ひげをそったり、入浴時には、着替えの準備を一緒に行い、着たい服を選べるよう、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では、準備や片付け、野菜の下ごしらえや味見等、出来る事に関わっていただいている。また、フキ・タケノコ等の下ごしらえを利用者様に行って頂き、調理方法も利用者様に教わりながら、季節の野菜を味わって頂いている	一部介助の方が若干名おり、他の方は自力で食事が出来る状況である。献立は冷蔵庫の中の食材を見て朝食は夜勤職員が卵料理中心に作り、昼食と夕食はそれぞれ肉、魚を交えた物を中心に調理し、季節に合わせ「竹の子」「みょうが」「ふき」等地物野菜を使い季節感が味わえるようにしている。また、月1回のイベント時には特別料理を楽しみ、12月には焼肉会も予定されている。利用者のお手伝いは力量に合わせ野菜の下処理から後片付けまで楽しみならやっていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がなかなか摂れない方の状況をスタッフ全員で確認し、ゼリーや、飲み物の味の工夫や、ホールではなく、テラスで外を見ながら水分摂取をして頂く等、工夫しながら、水分摂取を勧めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る事はやって頂いたり、状態に合わせた道具の使用や口の中に異常が無いか確認しながら、行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄記録を基に、その方に合わせたタイミングでの排泄介助や、その方に合った排泄物品の使用等検討しながら、できるだけトイレでの自立に向けた排泄介助を行っている	見守りを受け自立している方が三分の一弱、一部介助の方が三分の二、全介助の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しているが、基本的に3時間に1回の定時誘導と合わせ、一人ひとりの様子を見ながら声掛けを行い、スムーズな排泄に繋げている。排便については3日間ない場合は排便コントロールを行い、「お茶」「コーヒー」「スポーツドリンク」等の水分摂取を勧め排便に繋げている。排泄状況は排泄記録表に残し、申し送りで確認し快適な支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、野菜等、食事面での工夫や、水分摂取、散歩や体操で適宜体を動かしたりしながら、必要な方には利用者様の状況に合わせ医師、訪問看護師と相談し、薬や浣腸等の対応もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴後に着替える支度をご自身で選んで頂いたり、一番風呂が好きな方には一番風呂にお誘いしたり、どうしたら、気持ちよく楽しんで頂けるか、個々の様子を見ながら支援している	全利用者が何らかの介助を必要としている。広々とした明るい浴室には三方向から介助が出来る浴槽と機械浴が設置されており、機械浴使用の方が三分の一弱いる。週2回入浴を行い、拒否の方もいるが職員を変えたり一人ひとりのパターンを把握し入浴をしていただいている。「バラ」「ラベンダー」等の入浴剤を使用し、また、「菖蒲湯」「ゆず湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具やマットレス等は、個々の好みに合わせたり、体調や状態に合わせた物を使用出来るようご家族やケアマネと相談したり等している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に利用者様の様子を伝えている。薬などが変更になった時は、連絡ノートに記載しスタッフ全員が把握している。くすりの説明書もスタッフがいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事を生き生きと手伝ってくださる方、あやめには仕事で来ていると思っておられる方、テラスでお茶を飲むことを楽しみにされている方等様々な思いに合わせて、役割や楽しみが持てるよう支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、テラスや近所の神社へ散歩に出かけているが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、外食や買物等に出かけることが出来ていない	外出時、自力歩行の方と杖使用の方が若干名ずつで、歩行器使用の方が半数弱、車いす使用の方が三分の一という状況になっている。現状、ホーム入り口の駐車場を散歩したり裏のテラスでお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。新型コロナ禍が続き、外出を自粛しているが収束したらまた計画を立て、春の花見や秋の紅葉見物に出掛ける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の観点から、利用者様が自由に買い物へ出掛ける事が難しいが、本人に代わって職員が購入したり等、お金を所持する事の支援は続けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話や自身の携帯電話等を使用し、自由に家族や友人と会話が出来たり、家族や友人に宛てた手紙の投函の依頼を受ける事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に、危険カ所や不快なにおい等に気を付けながら、ホールには季節の飾り物や利用者様の状況に合わせ机や椅子の配置換えなどにも工夫している	玄関を入ると正面には綺麗な花が飾られている。両ユニットのパーテーションは外すことができ、広々としたホールには食事テーブルとソファーが置かれ、利用者の寛ぎの場となっている。中央には「七夕飾り」など季節の飾り付けが施され活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットにとらわれずに、ホールの特性を生かし、個々が過ごしたい場所を選んだり、一緒に居たい方同士が近くで過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの部屋には、馴染みのある家具、家族や友人からの手紙や写真等置いている方もおり、それぞれの好みに合わせたしつらえになっている	綺麗に整理整頓された居室には大きなクローゼットが完備され暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、テレビ、イス、タンス等が居室に持ち込まれ、家族の写真や趣味のヌイグルミ等に囲まれ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、案内板を設けたり、自身の部屋の入り口には目印をつける等、利用者様が目で見て分かるような工夫をしている		